

【ご参考資料】

2014年1月28日
野村アセットマネジメント株式会社

1月28日発表のインドの政策金利の引き上げについて

政策金利を7.75%から8.0%に引き上げ

インド準備銀行(中央銀行)は1月28日に開催された金融政策決定会合で、市場予想に反し、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き上げ年率8.0%に、リバースレポレート(中央銀行が市中銀行から資金を吸収する際の金利)を0.25%引き上げ年率7.0%とすることを決定しました。2013年10月29日以来、2会合ぶりの利上げとなります。

今月中旬に発表された昨年12月の消費者物価指数および卸売物価指数上昇率が鈍化の兆しを見せていたこともあり、大方の市場参加者が政策金利の据え置きを予想していました。

インフレ抑制を優先した政策決定

金融政策決定会合後の声明において同中銀は、昨年12月の物価指数上昇率鈍化の背景として、野菜・果物価格の下落という一時的要因を指摘しています。そして、「経済が軟調なうえ、今年1~3月期に相当程度の財政引き締めが予想されるなかでも、インフレ予想を安定化・抑制するためには、インフレ見通しへの上方リスクに対して、断固として対処することが重要である」としています。

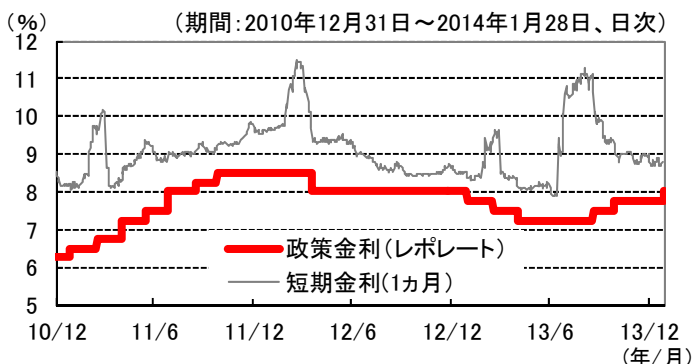
また、昨夏に比べて大きく改善した対外収支状況に言及しつつも、「財政・通貨当局は、マクロ経済安定化のための努力を継続する必要がある」と述べています。

1月28日の外国為替市場(東京時間15時頃)では、前日比、対米ドルで0.2%程度、対円で0.3%程度のインドルピー高となっています。

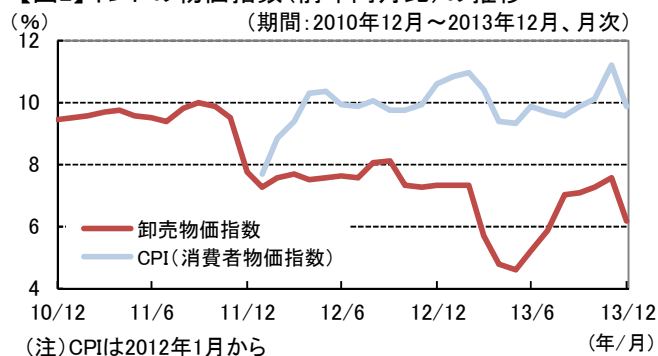
次回の金融政策決定会合は2014年4月1日の予定です。

以上

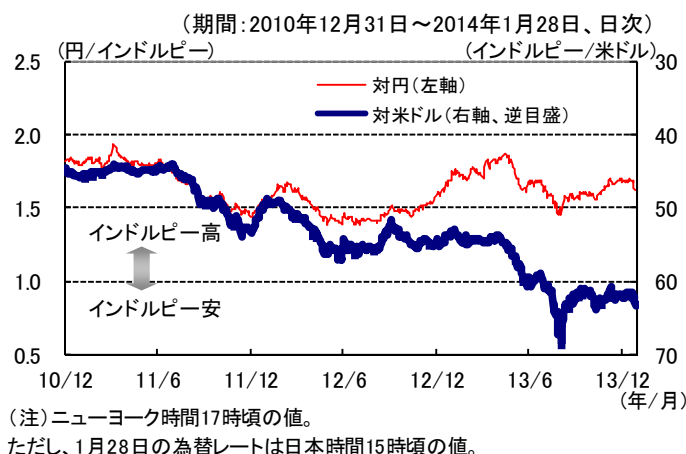
【図1】インドの政策金利と短期金利の推移



【図2】インドの物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドルピーの対円・対米ドルレートの推移



(出所)Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成